

香川県森林センター業務計画

令和8年3月

目 次

(目 的)	1
(基本方針)	1
(森林センターの業務)	
1 業務の範囲	1
2 業務の概要	
(1) 森林整備の推進	1
(2) 森林資源の利活用の促進	4
(3) 森林病虫害等防除対策の推進	4
(4) 野生動物による林業への被害対策の推進	5
(5) 林業普及指導	6
(6) 試験研究及び普及活動に必要となる情報収集	8
(7) 業務報告	8
(森林センターの施設の利活用)	
1 設備関連	9
2 施設配置図	10
(業務実施計画)	
令和8年度業務一覧(案)	11

(目 的)

「香川県みどりの基本計画（令和 8 年度～12 年度）」に基づき、本県の森林・林業行政を推進するため、令和 8 年度に香川県森林センターが実施する試験研究及び普及指導に係る業務計画を策定する。

(基本方針)

森林整備の推進及び森林資源（森林空間を含む。）の利活用の促進に資するため、次のとおり基本方針を定め、これに基づき試験研究及び普及活動を実施することにより、森林・林業の振興を図る。

- (1) 森林資源及び森林空間の多面的な活用により、山村の活性化並びに県民生活の向上に資する手法の開発及び普及に取り組む。
- (2) 優良な林業用種苗の生産及び安定供給を図るため、品種改良、生産技術の開発、採種園等の整備並びに種子の生産等を実施する。
- (3) 森林・林業の振興及び県民生活の向上を図るため、試験研究及び技術開発の成果を林業普及指導員を通じて森林・林業の担い手や森づくり活動団体等へ広く普及するとともに、森林センターのフィールド等を活用した実地指導や森林環境学習等を実施する。

(森林センターの業務)

1 業務の範囲

- (1) 森林整備の推進
- (2) 森林資源の利活用の促進
- (3) 森林病虫害等防除対策の推進
- (4) 有害鳥獣対策の推進
- (5) 林業普及指導（林業従事者の技術向上及び県民への森林・林業の普及啓発）
- (6) 試験研究及び普及活動に必要な情報の収集
- (7) 業務報告

2 業務の概要

(1) 森林整備の推進

多様な森林整備を推進するため、地球温暖化及び花粉症対策に資する成長性に優れた花粉の少ないスギ・ヒノキの種子生産や優良な広葉樹の育苗並びに供給体制の整備に係る試験研究を実施し、その成果の普及啓発を図る。

① 採種園管理業務

- 優良種苗の確保及び県内における林業用種子の安定供給を図るため、森林センター敷地内の採種園において、花粉症対策品種（少花粉）、特定母樹、精英樹（ヒノキ）並びに抵抗性アカマツ及びクロマツの育成・管理を実施する。
- 時代に即した種苗生産を推進するため、従来の精英樹（ヒノキ）から、スギ・ヒノキの花粉症対策品種（少花粉）及び特定母樹への転換を図る。

- 抵抗性アカマツ・クロマツについて、第一世代から第二世代への転換を図る。

② 優良種苗生産業務

- 林業用種子の安定供給を図るため、国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センターとの連携や最新の研究成果の収集を通じ、採種園の効率的な運営及び種苗生産技術の改良に関する試験研究を実施する。
- 成長及び材質に優れたスギ・ヒノキの花粉症対策品種（少花粉）及び特定母樹並びに高度な抵抗性を有するマツノザイセンチュウ抵抗性品種のアカマツ・クロマツについて、優良な種苗の早期供給体制を整備する。
- 精英樹と比較して花粉発生量が少ない花粉症対策品種（少花粉）並びにスギ・ヒノキの特定母樹を対象として、着花促進処理等に関する試験研究を実施し、種子の増産を図る。
- 優良な種子の生産を阻害する害虫の防除対策や、ヒノキ種子の発芽率向上に向けた精選精度の向上に関する試験等を実施し、種子の品質管理に努める。
- 特定母樹の効率的な導入を図るため、コンテナ苗の育苗技術に関する試験研究を実施するとともに、当該苗木を活用した低コスト造林技術の検討を行う。

③ 採種園管理計画（年間）

樹種	品種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
スギ	特定母樹			害虫防除(カメムシ)				種子採取		選別		人工交配		3月出荷
	少花粉			着花処理(ジベレリン)	雄花	雌花							補植・新植	
ヒノキ	精英樹							種子採取		精選・選別				3月出荷
	特定母樹			着花処理(ジベレリン)									人工交配	
	少花粉				雄花	雌花							補植・新植	
アカマツ	抵抗性(第一世代)							種子採取		選別				3月出荷
	抵抗性(第二世代)												新植	
クロマツ	抵抗性(第一世代)							種子採取		選別				3月出荷
	抵抗性(第二世代)												新植	

④ 森林センター採種園

令和7年度末

名 称	品 種	面 積	造成年度
スギ採種園 0.46 ha	特定母樹	0.26 ha	H28、R6、7
	少花粉	0.20 ha	H28、R5～7
ヒノキ採種園 2.05 ha	精英樹	1.04 ha	S43、44
	特定母樹	0.48 ha	H28、R6、7
	少花粉	0.53 ha	H28、R5～7
アカマツ採種園 0.53 ha	抵抗性（第一世代）	0.46 ha	H10
	抵抗性（第二世代）	0.07 ha	R 4
クロマツ採種園 0.62 ha	抵抗性（第一世代）	0.54 ha	S61
	抵抗性（第二世代）	0.08 ha	R 4
合 計		3.66 ha	

⑤ 令和8年度の種子採取計画

樹 種 名	R7 末残量	必要貯蔵量	R8 採取計画
スギ	精英樹	26.7 kg	無
	特定母樹	4.1 kg	8.2 kg 有
	少花粉	0.1 kg	1.9 kg 有
ヒノキ	精英樹	14.7 kg	8.1 kg 無
	特定母樹	13.3 kg	28.5 kg 有
	少花粉	8.1 kg	17.5 kg 有
第一世代抵抗性アカマツ	31.9 kg	2.3 kg 無	
第一世代抵抗性クロマツ	4.0 kg	6.1 kg 有	

1 必要貯蔵量は、直近3か年の種子販売量の平均の3倍以上とする。

2 採取は、必要貯蔵量に満たない樹種を基本として実施する。

⑥ 採種園の樹種転換の方針

- 今後需要の増加が見込まれるスギ・ヒノキの花粉症対策品種（少花粉）並びに特定母樹への転換を推進する。
- 抵抗性マツについては、順次、より高度な抵抗性を有する第二世代品種への転換を図る。
- 樹種転換に当たっては、同一樹種の花粉症対策品種（少花粉）と特定母樹が隣接しないよう、適切な配置を行う。
- 樹種転換後、種子の採取が可能となるまで4～5年を要することから、年次ごとの需要量を勘案し、計画的な樹種転換を実施する。

⑦ 広葉樹林・放置竹林管理

- 広葉樹林及び竹林の放置にともない、里山林の有する多面的機能の低下が懸念されることから、森林機能を維持・増進させるための森林整備技術に係る試験研究を実施する。

- 初期成長に優れ、森林整備の低コスト化に寄与する花粉症対策品種（少花粉）並びに特定母樹（スギ・ヒノキ）のコンテナ苗を活用し、放置された広葉樹林及び竹林からの樹種転換試験並びに現地適応化試験を実施することにより、現地適応性や成長特性等に係るデータの収集を図る。

【試験地】

試験地名	植栽樹種等		
高松市塩江町（鷹山国有林）	特定母樹スギ	220本	（0.1 ha 令和2年度植栽）
	特定母樹ヒノキ	220本	（0.1 ha 令和2年度植栽）
まんのう町佐文	特定母樹スギ	300本	（0.1 ha 令和2年度植栽）

【実績及び計画】

年 度	調査時期	
R3	高松市塩江町（鷹山国有林）	11月15日
	まんのう町佐文	11月8日
R4	高松市塩江町（鷹山国有林）	12月26日
	まんのう町佐文	12月8日
R5	高松市塩江町（鷹山国有林）	10月31日
	まんのう町佐文	1月9日
R6	高松市塩江町（鷹山国有林）	12月24日
	まんのう町佐文	3月18日
R7	高松市塩江町（鷹山国有林）	2月26日
	まんのう町佐文	3月24日
R8	11～12月	

- 早生広葉樹等の開発に向け、シバグリの育成試験を継続して実施する。

(2) 森林資源の利活用の促進

- ① 本県森林の約6割を占める天然林資源の活用に向け、広葉樹の家具・燃料等への利用促進や特用林産物の産地化に資する試験研究等を実施し、天然林の付加価値の向上に努める。
- ② 森林センターの管理にともなう伐採等により発生した端材等について、林業改良普及員との連携により木材の新規利活用に関する試験研究に供するとともに、森林・林業に関する普及啓発用教材等としての有効活用を図る。
- ③ 森林センターが管理する実習フィールドや森林資源を活用し、キノコ類等の特用林産物に係る栽培技術の検証等を、将来の森林・林業の担い手となる学生等と連携して実施することにより、林業振興に資する。

(3) 森林病虫害等防除対策の推進

- ① 県内で発生し森林の健全性を損なう森林病虫害に関する情報を収集するとともに、その防除対策に係る試験研究を実施する。
- ② 県内において森林病虫害の発生が確認された場合は、森林・林業政策課及び各林業事務所等と連携を図り、防除対策に係る調査及び試験研究を実施する。

【ナラ枯れ対応状況】

年 度	事 象	対応状況
R元	小豆郡小豆島町内で本県初のナラ枯れが発生	TWT（トランク・ウィンドウ・トラップ）による発生活長調査の実施 連携：みどり整備課、小豆総合事務所環境森林課
R2		みどり整備課による「香川県ナラ枯れ防止対策方針」の策定
R3	仲多度郡まんのう町内でナラ枯れが発生	発生状況の現地調査 連携：みどり整備課、西部林業事務所
R4		まんのう町内における TWT による発生活長調査の実施 連携：みどり整備課、西部林業事務所
R5		これまでの取組みを7月19日の関西地区林業試験研究機関連絡協議会保護部会で報告
R6		森林・林業政策課による「ナラ枯れ被害対策講習会」の開催（9月18日）
R7	小豆島でのナラ枯れの収束	収束状況の現地調査 連携：森林・林業政策課、各林業事務所

③ 県内で甚大な被害を及ぼしたマツクイムシ被害の防除指針に資するため、これまで継続してきた第一世代抵抗性マツにおけるマツノマダラカミキリの発生活長調査を引き続き実施するとともに、国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センターとの共同研究により、同センターが開発した第二世代抵抗性マツの接種試験を実施する。

(4) 野生動物による林業への被害対策の推進

- ① 野生動物（シカ、ノウサギ、イノシシ等）による林業被害の抑制を図るため、県内の被害実態及び防除手法に関する情報を集積し、対策に係る試験研究等を実施する。
- ② 県内において有害鳥獣による林業被害が発生した場合は、森林・林業政策課及び各林業事務所等と連携を図り、対策に係る調査及び試験研究を実施する。
- ③ 有害鳥獣による被害から森林センターの採種園を保護するため、その周囲に防護柵を設置する等の対策を講じる。

(5) 林業普及指導

現在、約 1 万 2 千ヘクタールの民有林ヒノキ人工林が、住宅の柱材等として利用可能な時期を迎えていることから、搬出間伐による県産木材の利用を促進するなど、森林・林業に関する施策を総合的かつ計画的に推進する必要がある。

このため、森林センターでは、森林・林業政策課や各林業事務所の普及指導員等と連携し、間伐技術の向上や経営改善を目的とした森林所有者等への指導・助言、林業事業体及び後継者の育成に取り組みを実施し、効果的かつ効率的な森林施業技術の普及・定着を図る。

また、生物多様性の保全への森林の公益的機能や、循環型林業への期待が高まっていることを受け、「ネイチャー・ポジティブ」をテーマとした研修等を森林・林業関係者以外にも一般県民や企業等も対象に開催する。

① ICT 技術の活用

ICT 等を活用した新技術の林業現場への導入については、「周知・理解」、「検証・実証」、「本格導入」の各段階を経て進めることとし、新技術の普及・実証及び円滑な導入支援を推進する。

② 森林・林業に従事する人材の育成

○ 香川県立農業大学校と連携し、同校学生(林業・造園緑化コース)を対象として、森林センターのフィールドや県有林を活用した実習等を実施することにより、次代の森林整備を担う人材の育成及び確保を支援する。

【実績及び計画】

年度	区分	場 所	内 容
R6～	座学 実習	森林センター	森林基礎 林業労働安全 林業機械（伐木・造材） 造林（下刈り） 森林防災 その他（特用林産等）

- 森林・林業関連業務に新たに携わる県及び市町職員を対象として、専門知識の習得や実務演習を実施することにより、円滑な業務遂行を支援する。

【実績及び計画】

年度	講 義	日 程 等
R3	1回目 穂先タケノコ	5月14日 (3名)
	2回目 コンパス測量、製図	6月9日 (3名)
	3回目 接種検定	7月12日 (3名)
	4回目 標準地調査	9月27日 (2名)
	5回目 シイタケ原木伐採	10月27日 (2名)
	6回目 シイタケ原木玉切	12月13日 (1名)
	7回目 シイタケ駒打	3月11日 (1名)
R4	1回目 香川の森林・林業及び施策の概要、 広葉樹材の活用(薪)、山での注意点、 ハチトラップ作り	6月14日 (5名)
	2回目 採種園の育種・母樹断幹、森林環境教育、 樹木の観察、クラフト作り	10月18日 (4名)
	3回目 森林計測、林業道具と使い方、 治山施設見学、森林内路網見学、立木調査、 地図から地形を読む	12月6日 (6名)
R5	1回目 香川の森林・林業、森林保護	6月27日 (4名)
	2回目 森林土木	10月11日 (3名)
	3回目 特用林産	1月16日 (4名)
R6	1回目 香川の森林・林業、森林病虫獣害	7月9日 (12名)
	2回目 森林土木	11月12日 (13名)
	3回目 森林の公益的機能	1月28日 (9名)
R7	1回目 香川県の森林と林業の歴史ほか	7月11日 (25名)
	2回目 山地災害発生メカニズムと治山事業ほか、	9月16日 (19名)
	3回目 間伐施業の実際ほか	11月7日 (27名)
R8	3回 香川の森林・林業、森林保護(野生動物被害対策を含む)、森林土木(保安林を含む)、特用林産等	

- 森林センター内のフィールド等を有効に活用し、林業技術の実地指導並びに幅広い県民を対象とした森林環境教育を推進する。

③ 森林・林業の普及啓発

- 森林の多面的機能への理解を深め、適切な森林管理を促進するため、森林センターをはじめとする県有施設等においてポスター等の展示を実施する。

【実績及び計画】

年度	展示の内容	期間・会場	来場者数
R3	香川県森林センターだより (林業普及指導事業の取組み、 かがわ県産広葉樹と檜の物語)	R4. 2. 20～ 3. 2 香川県立文書館	591
R4	香川県森林センターだより (香川のヒノキの物語)	R4. 9. 13～10. 2 香川県立文書館	674
R5	香川県森林センターだより (森林センターの樹木マップを作成しました)	R6. 3. 12～ 3. 31 香川県立文書館	738
R6	香川県森林センターだより (森林センターの樹木マップを作成しました)	R6. 4. 23～ 5. 28 公渕森林公園	
R7	かがわヒノキに関するパネル展示	R7. 7. 1～ 8. 31 森林センター	
R8	かがわ県産広葉樹と檜の物語 第二話	R8. 3. 27～ 5. 29 公渕森林公園	

(6) 試験研究及び普及活動に必要となる情報収集

① 行政ニーズの把握及びその対応

行政ニーズに対応した新技術の導入試験や有益な情報の収集を図るため、普及及び試験研究に関する各種会議等に参画する。

特に、全国林業試験研究機関協議会シンポジウム、関西地区林業試験研究機関専門部会、日本森林学会大会等へ積極的に参加し、研究発表を通じた専門的知見の交換により、新たな試験研究課題や普及啓発手法の検証を行う。

【主な会議等】

名 称	内 容
全国林業試験研究機関協議会	総会、シンポジウム
関西地区林業試験研究機関連絡協議会	総会、育林育種環境部会、保護部会
四国地区林業技術開発会議	会議（森林・林業政策課普及担当同席）
林業研究・技術開発推進近畿・中国ブロック会議	育種分科会
林業研究・技術開発推進四国ブロック会議	全体会議、研究分科会
香川県試験研究機関場所長連絡会	連絡会議（農業、畜産、水産、森林）

② 森林センター図書室の管理

広く県民の利用に供するため、森林・林業に関する図書、論文、定期刊行物等の資料を収集・整理し、適切に管理するとともに、閲覧ができるよう一部を公開する。

(7) 業務報告

業務計画に基づき実施した試験研究及び普及活動について、年末までに業務報告として取りまとめ、県内外の関係機関等へ情報提供を行う。

(森林センターの施設の利活用)

1 施設関連

試験研究及び普及指導に必要となる機材や施設については、順次、更新・整備を行う。

(1) 研修室 (最大 30 名収容可能)

名 称	基 数 等
演台 (マイク付き)	1 台
机	25 台
椅子	47 脚
液晶プロジェクター	2 台
スクリーン	2 台 80 型、150 型
ワイヤレスアンプ	2 台 ワイヤレスマイク各 2 本付き

(2) 展示室

展示物は、試験研究及び普及活動の成果に応じて、順次、更新する。

(3) 試験室 (主な試験機材)

名 称	主な用途等
低温恒温器	マツノザイセンチュウの培養、発芽試験
グロースチャンバー	マツノザイセンチュウの培養、発芽試験
実体顕微鏡	比較的低倍率 (2~30 倍程度) での試料の観察
倒立顕微鏡	試料の下側からの観察
蒸留水精製器	水道水に含まれるミネラル等の除去
送風定温乾燥機	湿試料の乾燥 (風乾)
電子天秤	重さの測定
マグネチックスターラー	液体の攪拌
オートクレーブ	実験器具に付着した雑菌等の滅菌
超音波洗浄機	実験器具に付着した油や微細な塵・汚れ等の洗浄
乾熱滅菌器	実験器具に付着した微生物の殺滅
クリーンベンチ	無菌状態での作業 (マツノザイセンチュウの培養)
種子保存用冷凍庫	マイナス 9℃で保存が可能
各種実験器具	シャーレ、ピンセット、フラスコ、メスシリンダー等
試薬	各種試験用

(4) その他道具等

区 分	主な用途等
作業関連	ノコギリ、クワ、ナタ、チェーンソー、刈払機等
測量関連	コンパス、巻尺、ポール、スタッフ
その他林業関連	輪尺、ブルーメライス、クリノメーター

(業務実施計画)

令和8年度業務一覧(案)

区 分	内 容
森林整備の推進	採種園管理業務の委託 (球果採取、球果品質管理、人工交配、母樹植栽等)
	特定母樹コンテナ苗の育林技術の開発
	林業用種子の品質及び発芽率を高める技術の開発
	花粉症対策品種及び特定母樹採種園における種子供給体制の確立 (ジベレリン処理、人工交配、病害虫対策)
	抵抗性クロマツ追加接種検定《関西育種場》
	苗木生産者を対象としたコンテナ苗の生産技術検討会の実施 《森林・林業政策課》
	森林センター管理品種の家系毎の発芽率の検証
	ジベレリン処理した品種の球果発生量調査の実施《関西育種場》
	特定母樹(スギ・ヒノキ)のコンテナ苗における成長特性等のデータ収集 《各林業事務所等》
	ミニチュア採種園(ヒノキ)管理方法の確立(断幹、整枝)
	第二世代抵抗性アカマツ・クロマツ採種園の育成管理
	第二世代抵抗性マツの接種試験の実施《関西育種場》
	少花粉スギ・ヒノキの花粉採取方法の確立
	花粉症対策品種の花粉量調査《関西育種場》
	花粉症対策品種採種園の追加造成
森林資源の有効活用	早生広葉樹等(シバグリ)の育成試験
	広葉樹材の利用促進のための情報収集及び利活用方法の検討 《各林業事務所等》
	広葉樹更新伐施業後の萌芽並びに天然下種更新の推移調査 《各林業事務所等》
	分根によるウルシ苗の育成試験《各林業事務所等》
森林病害虫等防除対策の推進	マツノマダラカミキリ発消長調査
	県内で発生した森林病害虫等についての情報収集 《森林・林業政策課、各林業事務所等》
	ナラ枯れ発生後の植生遷移状況調査の実施《各林業事務所等》
有害鳥獣対策の推進	鳥獣による林業被害情報の調査、対策方法の情報収集及び研修の実施 (シカ、ノウサギ、イノシシ等)《森林・林業政策課、各林業事務所等》
林業普及指導	県民からの森林・林業等に関する相談への指導実績の蓄積
	森林環境学習の実施(幼児、小学生等)
	スマート林業全体把握のための情報収集(ICT関連)
	現場技能者育成研修の支援《森林・林業政策課、各林業事務所等》
	生物多様性の保全に配慮した森林施業に関する研修等の実施
	森林センター見本園等の整備(主要な樹種への樹名板設置等)
県有施設を活用した試験研究や普及指導のPR活動の実施	
人材の育成	香川県立農業大学校との連携による新たな森林・林業の担い手の育成のための実習等の実施
	森林・林業に関連する業務に従事する県若手等職員の知識及び技術の向上のための研修会の実施《各林業事務所等》
	森林・林業の担い手確保に必要なと思われる新たなスキーム等の検討

注 《 》内は共同研究または連携先、**太字**は重点取組事項